

医員(研修医)修了にあたって

忘れたくないこと

研修医 義歯診療室 宮 堀 友理子



なりたくてやっとなれた
歯科医師として働いて二年
が経とうとしている今。ま
だ「初心」といえる時期だ
と思います。そこで「初心
忘るべからず」ということ
で十年後もしくは二十年後
の私がこの忘れたくないことを思い出せるように
ここに書かせていただきます。

一つ目として、歯科医師の仕事はやりがいがあ
って楽しいということです。毎日の診療で指導医
の先生に助けていただかないことは一度もなく、
そのたびに自分の未熟さに落ち込みます。診療に
時間がかかりすぎて患者様が疲れた顔で「大丈夫
よ」などとおっしゃってくださいると本当に申し訳
なくなります。しかしそれと同時に新たに身につ
けたい知識や技術がどんどん増えて前向きな気持
ちになります。苦しい気持ちとわくわくする気持
ちが混在する何とも言えない不思議な感じなの
ですが、最終的に前向きな気持ちになるのはやはり
患者様がいてくださるからです。患者様が少しで
も元気になってくださったり喜んでくださると落
ち込んでいたことなんてけろっと忘れてしまいま
す。模型で練習をしたりして次の診療の時指導医
の先生に助けていただく度合いがほんの少しです
が少なくなるととてもうれしくなります。そして
また新たに自分の未熟さに気づく出来事があり、
というようにその繰り返しの毎日です。でも、「前
にすすむのみ」です。ですからやはりどう考えて
も歯科医師の仕事はたのしいです。

二つ目として、歯科医師の仕事は患者様の人生
に踏み込んでしまうということです。それはいい

意味でも悪い意味でもそして大なり小なりです
が、紛れもない事実だと思います。患者様一人一
人にそれぞれの人生があつてその中の歯科治療な
のです。だからこそ、その人にあつた治療方針を
私は立てなければならぬし、その中で出来る限
りのことをしたいと感じます。もし少しでもいい
加減なことがあつたならば、それが治療効果など
にあまり影響がないとしてもその患者様の人生を
少なからず壊してしまったことになると思います。
急な事情で通院できなくなってしまった患
者様がいらつしゃいました。その時、「本当に私は
最善の治療をすることが出来たのか」と取り戻す
ことの出来ない時間を恐ろしく感じました。しか
し、ある先生が「最善が何なのかはわからないけ
れど出来る限りのことは絶対にしたはず」とおつ
しゃって下さいました。とても難しいことだと思
います。指導医の先生方などベテランの先生に比
較したら明らかに私の技術や知識は未熟です。だ
から当たり前ですが少なくとも今の自分より後退
してはいけません。これもある先生がおつし
やつたことですが、未熟な身であつてもしつかり
した「プロ意識」を持たなければならないとい
ことを教えてくださいました。研修医はプロの歯
科医師であり、患者様は病気を治したいという意
欲とともに料金を支払って歯科治療を受けてくだ
さっているのです。この「プロ意識」という言葉
を節々で意識すると自然に背筋がしゃんと伸びる
ような気がしました。

そして三つ目です。研修医生活で歯科医師とし
てというより人として学んだ重要なことがありま
す。それは一緒に働く仲間や上司の先生方の大切
さです。正直私はものすごく自分勝手に夢中にな
ると周りが見えなくなり協調性にかなり欠けると
いう、人として未熟すぎるころがあります。実
はこの事実には昔から薄々感じてはいたのです
が明らかにそうだとことをやっとな最近認識し
ました。今でもこのことで周りの仲間には大変な

迷惑をかけてしまっていると思います。それなのに仲間はみんな優しいし助けてくれるのです。総合診療部で診療していて特に一年目ではいつも必ずペアの仲間が助けてくれて一人ではできないことができたり、自分では気づかないことを教えてくれたりしました。これからは、というか今この瞬間から悪いところは直すよう頑張りますから皆さんあきれないでくださいね。本当に仲間のみなさんや先生、ごめんなさい。そして本当にありがとうございます。そして絶対に嘘ではない事実として、もう一度二年前に戻って卒後の進路を選ぶことが出来るとしたら、どう考えても同じ道を選択します。それだけ充実していたし幸せな時間でした。やった結果後悔したことなんて全くひとつもありません。全ての出来事が私にとっては不可欠でしたし、大切でした。未熟な私なりに全力で生きることが出来たと思います。

いろいろ書かせていただきましたが、これらのことは怖いものが何なのかもわかっていない未熟な私の考えで、二十年後といわずとも二年後ぐらい、いやもしかしたら明日この文章を見てもものすごく恥ずかしいかもしれません。それを考えるとかなり恐ろしいのですが今から恥ずかしがってはいけませんよね。今はいくら恥をかいても乗り越えられる時期ということで許してください。今後も私がなんだかおかしいことを考えていたりつまづいていたりすることが絶対頻繁にあると思いますので、その時にはぜひぜひ声をかけていろいろなご指導をお願いします。

研修医を終えて……

研修医 歯の診療室 廣田 雅彦



2005年12月某日、研修医幹事さんより一通のメールが届く。「この度、歯学部二ユースの原稿を男女一名ずつお願ひしようと思ひます。公平に抽選するため、あみだくじで行いたいと思ひます。」。エーッ！ 男女各1名～！ やばいじゃん、つーか、男5人しか居ないじゃん、当たりそう～！ と思ひつゝ、案の定と言ひますか、見事当選いたしまし、恥づかしながら原稿を書かせていただきます。

研修医として過ごした二年間。振り返ってみると、あっという間だったなと。あまりにも時が経つのは早い。早すぎるもので、二年前の四月の登院式がまるで昨日のことのように感じられます。それだけ2年間、充実していたということでしょうか？（正直、……）ただ、2年間を振り返って思ひ出されるのは、指導医の先生のお叱りのことばかり？ いや、熱血指導と言ひつゝの方が正しいですね……毎日のように指導していただきました。

1年目は総合診療部での研修でした。総合診療部には5名の指導医の先生がいらつしやいます。それぞれ優しい先生ばかりで時には厳しいことも言われますが、情があると言ひますか、いつもなんらかのアドバイスをしてくださいます。1年間を通して、特に石崎先生には本当にお世話になりました。石崎先生は総括的な指導医ということもあり、同期の中で特に私を気にかけてくれていたように思ひます。「ダメじゃないの～!! 患者様の主訴は何なの？ どうしてこんな治療方針になるのよー!? まずこれが先でしょー！」 総診教室、またはカンファレンスルーム？（総診にある角部屋のことです、名前間違つたらごめんなさい）にて稲妻を落としてしまい、私自身が石崎先生のストレスの根源のようになっていたような気がします。（言い過ぎでしょうか？）症例報告会の際には原稿がなかなか出来上がらない私を見るに見兼

ねて、わざわざ休日にも関わらず大学に来ていただき、添削してくださいました。毎日のように目を向けていただきまして、本当にありがとうございました。

研修医2年目はう蝕学分野（1保存）での研修でした。2年目の研修で一番印象に残っているのは、月に数回、アシストという形で興地教授の診療の見学をさせていただいたことです。マイクロスコープを通して見られる根管治療は驚愕と言いましょうか、全くの別世界で、湾曲根管へのアプローチの仕方、超音波スケーラーを使用している異物片除去など非常に勉強になりました。また、日々の臨床で行き詰った際には上の先生方によく相談に乗っていただきました。特に、総括医長には日々指導をしていただき、本当に嬉しく思います。（診療終了後の総括医長の私に対する熱意あふれる指導、これはもはや……愛？ みたいな。）

で、2年を振り返り、今現在……就職活動真っ只中（なんで新潟ってこんなに就職厳しいの？）ではございますが、歯科医師として将来、一人前に果たしてなれるのだろうかという不安で頭が一杯です。2年経ってはみたものの、お世辞にも一人前とは言えず、半人前、いや、それ以下な現状……開業医でうまくやっていけるのだろうか？これから畳み掛けるかの如く挫折するであろうが、はたしてそこから這い上がって来れるのだろうか？ と……ただ、興地教授からいただいた何

気ない一言で少し楽になりました。2005年12月28日、その年最後の診療が終わり、御用納めということで教室にてささやかな飲み会が行われていました。酔いが回るにつれ、教室の問題児（言い過ぎですかね？）であります、私が先生方から臨床のダメな点を指摘され、お酒は入っているはずなのになぜか酔えない、みたいな感じだったところ、教授から一言、「いや、廣田は……なんだかんだ言っても世の中うまく渡っていけそうな気がするよ。なんというか、そんな気がするんだなー。」と。教授もかなり酔いがまわっておられたため、本心で言っただけなのかどうかはわかりませんが、いずれにせよ、その一言はとても心に染み入るといふか、楽になった気がします。と、余韻に浸っていると、急に酔いがまわってきたため、その後のことはあまり覚えていないような……

研修医として過ごした二年間、なんだかんだで、とても居心地が良かったように思います。良き上司、良き後輩に巡り会い、良き環境で研修させてもらったんだと。そのため、研修医を終えることが嬉しいような、悲しいような、複雑な気持ちです。最後に、お世話になりました総合診療部、う蝕学分野、および新潟大学歯学部先生方、今まで本当にありがとうございました。先生方から学んだ知識・技術を大きな糧として、邁進して行きたいと思います。ありがとうございました。

